「釣りキチ戦争」

三枝樹明良

　からだのすぐ近くを弾丸が飛び交い、上空にはヘリが旋回している。爆音とともに物が吹っ飛び、悲鳴が上がる。日本も戦争が起きたらそうなってしまうのかなと私は大好きな渓流釣りをしながら考えていた。葉を茂らせた木々が風に揺られざわめく。その間を美しい声を響かせ野鳥が飛んでいく。都会の喧騒を忘れさせるように静かに流れる渓流。そんな大好きな空間を絶対に失いたくない。

釣りができるということは、平和ということだと思う。心にゆとりがなければ、釣りなんかできないし、自然環境が整っていないとできない。だから私は平和な世の中を生きたい。戦争なんてまっぴらごめんだ。

“私はやっぱり釣りがしたい。”これがすべての原動力である。

　今はロシア、ウクライナ間での戦争が毎日のように大々的に取り上げられているのは皆さんもご存じだろう。しかし戦争とまではいかなくても紛争など世界中のどこかではいつも争いが起きている。そう考えると戦争ってなくならないんじゃないかなんて思ってしまう。戦争をすれと当たり前だがたくさんの人が死に、悲しみ、苦しむ。その反面、戦争をすることによって利益を得る武器会社や国の偉い人など喜び楽しんでいる人も絶対にいる。そんなほんの一部の人の自己中心的な人達のために子どもたちも含め数えきれないほどの命が失われてしまっているのだ。

　でも、その人々の命を実際に奪っているのもまた同じ人間であり、中には私たちと同じ未成年の子どももいるに違いない。もし私が今誰かに人を殺せと命令されても殺せないだろう。想像もつかない。しかし、人間は洗脳されれば簡単に人を殺せてしまうのだ。これが洗脳であり、恐ろしい戦争だと思う。

　私たちは幸いまだ戦争を経験したことがない。できることならこのまま戦争もなく、平安な世の中が続いてほしい。

　しかし先日の2，3年生が聞いた沖縄県の石原艶子さんのお話にもあったように軍事大国であり、憲法9条さえも危ういようなこの日本が戦争をしないとは思えないし、言い切ることもできない。むしろ近いうちに起こると考えておいたほうが確かな気さえしてしまう。

　私たちの将来はいったいどうなってしまうのだろうか。一つだけ言えるのはこのままの社会の状態でもし戦争が起こってしまったらたくさんの人の命が奪われてしまうだろうということだ。皆さんもわかっていると思うが食品を筆頭にほとんどの物を輸入に頼り、働き稼いだお金でそれらを買い生活するという社会の仕組みはとても不安定で危うい。いくらお金を持ち贅沢な生活をしていたとしても、戦争などで貨幣が使えなくなっただけで、飢餓や貧困によって一瞬にして命が脅かされてしまうのだ。いざという時本当に大切なのは最低限生活に必要なものを自分で作り生き抜ける力だと思う。

人はお金がなくても死なないが食べるものがなければすぐさま死んでしまう。第二次世界大戦中も金は持っているが食べるものに困った人たちが百姓のもとを訪ね歩き何とか食いつないでいたという話を聞いたことがある。

　今の日本は耕作放棄地がありあまり、農家はとても苦しい立場だ。例に挙げた百姓のようにいつか必ず必要とされる時が来るだろう。というより百姓をし、食べ物を作らないと生きていけないような時代が遅かれ早かれ来てしまうと思う。でもいつ来るかはわからない。しかし、そんなときどんな生き方が強いのか誰の目で見ても明らかだろう。

　だから私はこれから先そんな時代を生き抜けるような力を身に着けていきたい。そして時代や社会に流されず、自分で考え生活していきたい。

　具体的な理想の暮らしとしては生に直結する食べるものを生産するための田畑があり生態系豊かな森林、そして欲を言えば私にとって必要不可欠な川も欲しい。極端に言ってしまえばこれさえあればある程度生き延びられる。そんな必要最低限で、なくてはならないものの中にあえて身を置きその中で自分で考え工夫し生活する。

『生活』、読んで字のごとく生きる活動をしていきたいと考えている。それはまさに少し前まではほとんどの人が当たり前のようにしていた百姓という生き方だ。

私は9歳の時に父と一緒にネパールに1か月滞在した。その中で2週間ほどヒマラヤのふもとのある村でホームステイした。そこは都市から離れており、市販のものが入ってきにくい。そのため水牛、ヤギ、鶏、ミツバチなどを飼い食品のほとんどを自給していた。それだけでなく村には鍛冶屋があり農耕の道具なども作っていた。子供たちは学校から帰ってくると農作業や赤ちゃんの子守を頼まれる。仕事の合間には野山を駆け回り自然のもので工夫し遊んでいた。そこで一番印象に残ったのは村に生きる人々の生き生きとしている様子だ。皆裕福なわけではない。中にはお金を稼ぐために日本に行きたいという人もいた。しかしネパールの人にはお金はなくても豊かさを感じさせる何かがあった。私自身もとても新鮮な毎日だった。9歳のころの私はそれを見ても何も思わなかったが今思うとそれこそが人が生きる上で本当に大切なことではないかと思う。

　少し話は変わるが、今世間ではSDGｓとか言って騒いでいる。しかし私はばかげた話だと思う。所詮金儲けが目的だろう。物を使いたいだけ使い捨てまくっている社会、「環境に配慮しています」それだけで世界が変わったら苦労しない。

　一番いいのは会社が商品を作らず売らなければいいだけだ。捨てるものも出ないし変な配慮なんてしなくてもいい。でもそれでは儲からず社会も回っていかないし、私も含め自分で何も作れない現代人は死んでしまう。情けないものだ。社会の仕組みは植物のように根っこは枯れかけているのに葉っぱだけ青くしようとしても無理だ。根っこ一本一本、個人個人が無駄なく必要なものを吸収し、生きるために必死になるからこそ社会全体は成り立つ。

　いつか政治家が、誰かが、世界を変えてくれる。ＳＤＧｓを信じてやっていれば世界は救われる。それじゃあいつまでたっても変わらないと思う。そうこうしているうちに死んでしまうかもしれない。

これから先の未来を生きるのは誰が何と言おうと私たち自身だ。これだけは変わらない。大人たちが起こした戦争に巻き込まれようとも、もう人類が住めないような地球を渡されたとしても。私たちは全責任を負わされる。この時代に人間として生まれてきてしまった以上、なんとしても生き抜き命のバトンを次の世代へその先も継いでいかなければならない。

　時に私はこんな人間こんな人類いっそ死滅してしまったほうがいいのではないか。そのほうがよほど地球上に生きるすべての生命たちが幸せに生きられるんじゃないかなんて考えてしまう。しかし私たち人類はこの星に生まれてきて現に今こうして生きている。地球上の生命にいくら迷惑をかけたとしても人が生まれてきたということに何かしらの意味はあるのではないか。

今まで人類が殺してきた数えられない生命、人々が犯してきた過ち、そして今も苦しめ続けていること。それはあまりにも大きすぎて、いくら償おうと思っても償いきれない。だからこそ私は人類、人間、そして私が生きるための意味を見つけるためにたとえたどり着けなかったとしても私はいきたい。誰かの言いなりなんて嫌だ。戦争なんてまっぴらごめんだ。私はやっぱり釣りがしたい。私は生きるためにもこの先も魚の命を奪い続ける。これが釣りキチというものである。

ご清聴ありがとうございました。